

「アルテリッカ特別講座」講師プロフィール（Ⅰ）

●11月15日（水） 小川信夫 おがわ・のぶお（劇作家・玉川大学元客員教授）

1926年10月17日、神奈川県津久井郡に生まれる。小学校教員の傍ら、全人教育の立場から文学活動に携わり NHK 道德番組をはじめ青少年向け作品を多数執筆。その半生を教育と演劇に捧げてきた。平成2006年川崎郷土・市民劇「多摩川に虹をかけた男」で斉田喬戯曲賞受賞。1990年川崎市文化賞。川崎市総合教育センター所長、玉川大学学術研究所客員教授、現代教育文化研究所代表、日本芸術振興財団演劇専門委員、文化庁文化政策推進会議演劇専門委員、文部科学省道徳資料作成委員、日本児童青少年演劇協会相談役など歴任。自身にとって第8作目となる川崎市制100周年を記念しての川崎郷土・市民劇「百年への贈り物～川崎市誕生ものがたり～」が2024年5月、アルテリッカしんゆりでの上演を控えている。現在、台本を鋭意執筆中。

聞き手：塩谷護（市民劇制作） 腹話術師しろたにまもるとして相方の人形「ゴローちゃん」との活躍で人気。

平成26年度（第43回）川崎文化賞。



●12月6日（水） 斎藤文夫 さいとう・ふみお（川崎浮世絵ギャラリー名誉館長・川崎市観光協会会長）

1928年7月11日、川崎市生まれ。慶応義塾大学卒業後、大日本製糖（株）に勤務。外務大臣藤山愛一郎氏の秘書を経て63年から県議会議員を5期（74代県議会議長）、86年から参議院議員を2期務め、商工委員長、通産政務次官などを歴任。浮世絵のコレクターとしても知られ、平成13年に自宅を改造して浮世絵約4千点を一般公開する「川崎・砂子の里資料館」を開設。その膨大なコレクションは、2019年に開館した「川崎浮世絵ギャラリー」に引き継がれ名誉館長に就任。「観光カリスマ」の顔も持ち、県観光協会会長、川崎港振興協会会長、県更生保護協会理事長など役職多数。勲二等瑞宝章、瀬戸山賞、国際浮世絵学会賞、神奈川文化賞、川崎市文化賞などを多彩な受賞歴を誇る。近年は、観光・文化をテーマに各地の講演会に呼ばれるなど多忙な日々を過ごしている。



●12月20日（水） 玉川祐子 たまがわ・ゆうこ（曲師）

1922年10月1日茨城県西茨城郡北山内村片庭（現笠間市）生まれ。小学校を卒業後、奉公先で聴いた浪曲に魅了され17歳で上京、浪曲師・鈴木照子に入門。二年後、「お前の声は金にならない」と師匠筋から言われ、無念ながら浪曲師の語りに三味線で伴奏をつける曲師に転向する。私生活では結婚、離婚、一度の廃業を経て復帰。75年に浪曲師・玉川桃太郎と再婚し夫婦コンビとして活躍、息の長い人気を誇る。2022年に「祝・百寿記念 玉川祐子の会」が浅草・木馬亭で開催され大盛況。昔ながらの愛好者と若いファンが入り混じり、新時代の到来を予感させる浪曲界。2023年夏には、玉川も出演したドキュメンタリー映画「浪曲絶唱ストーリー」が公開され根強い人気で現在も上演が続いている。御年101歳、ますます目が離せない浪曲界のレジェンド。2024年4月、アルテリッカ演芸座への出演が控えている。

聞き手：玉川太福（浪曲師） 浪曲界若手のホープ。アルテリッカ演芸座では、玉川祐子曲師の伴奏で語る。

